

- 本年5月に策定した「みどりの食料システム戦略」について多様な関係者に戦略を知っていただくために、情報発信や意見交換を積み重ねてきたところ。
- 今後は、R3補正予算・R4当初予算等の支援措置をしっかりと説明し、現状の栽培技術を踏まえた栽培暦の見直し等、現場の取組を後押しできるよう進めていく。

「みどりの食料システム戦略」に係る意見交換

意見交換等の実施回数合計（12月20日時点） 7,450回

本省：593回、地方農政局等：6,857回

地方農政局における推進体制整備

- ・ 各農政局等次長の下に、原則農政局等の各部、企画調整室から成る「みどりの食料システム戦略推進事務局」を設置。
- ・ 事務局の下に、「みどり戦略実装チーム」を設置し、県拠点とも連携しつつ、現場での意見交換、地域の課題や特徴を反映させた案件づくり等に取り組む。
- ・ 戦略の実現に向け、農研機構とも連携をとっていく。

取組検討地区の検討内容（例）

- ・ 環境負荷軽減と安全・安心な米の生産を実現する「滋賀県環境こだわり農業」の推進に向け、ペレット堆肥の利用等を検討。（滋賀県湖北・湖東地域）
- ・ 果樹剪定枝の炭化・土壌貯留の拡大に向けた取組を検討。（山梨県全域）
- ・ 有機米生産に向けた、自動抑草ロボットの活用や販路の開拓を検討。（山形県鶴岡市）
- ・ 機械メーカーや民間事業者と連携し有機面積の拡大や販路開拓を検討。（島根県浜田市）
- ・ バイオガスプラント（メタン発酵施設）から排出された液肥の利用を検討。（沖縄県八重瀬町）

【現場から寄せられた主な意見】

- 一つ二つ成功例を作っていくことが普及のきっかけになる。
- 生産者だけでなく流通・消費の理解醸成で取り組む必要。
- 地域単位で土づくりを行うための堆肥の製造施設の確保が必要。
- 堆肥散布は重労働で進まない。簡単に散布できるペレット堆肥の開発・普及や散布用の機械導入が必要。
- 有機農業の場合、隣接する圃場からの農薬飛散の回避や、ロット確保・販路拡大を図るためには、団地化やグループ化が有効。
- 栽培暦が変わっていけば、農家も抵抗なく取り組める。



バイオガスプラント(八重瀬町)



自動抑草ロボット(鶴岡市)